

I 10・11月の連盟・日本連盟事業 ※会議等は除く

月 日	名 称	主 催	内 容
10/1(土)	団委員(長)のための講演会	総務委員会	「団の正常化の全県的な取り組みについて」をテーマに中島理事長に講演していただきます。
10/2(日)	セーフ・フロム・ホームセミナー実践編	指導者養成委員会	問題発生時の対応を学ぶ、より実践的な研修になっています。
10/7(金) ～10(月)	WB研修所スカウトコース	指導者養成委員会	全部門の指導者が共通に履修し、スカウト運動の基礎を学ぶ基本型のコースです。
10/16(日)	スカウトフォーラム	プログラム委員会	IV-(1)に詳細
10/16(日)	ロープ結び研究会 STEP1	指導者養成委員会	用途に応じた効果的な結びを使って実際に工作物を作っていきます。
10/23(日)	WB研修所課程別研修	指導者養成委員会	基礎訓練課程を修了した指導者の各部門別の研修になります。
11/3(木) ～6(日)	コミッショナーベリックトレーニング	日本連盟	土浦市青少年の家で開催。関東ブロック開設研修。
11/6(日)	救急法講習	プログラム委員会	開催地 ひたちなか市「ふぁみりこらぼ」 対象 ボーイスカウト、ベンチャースカウト
11/13(日)	野営法研究会 STEP1	指導者養成委員会	スカウトキャンプに必要なスキルを研究し実際に体験し、身に付けていく研修です。
11/19(土) ～20(日)	ハイキング研究会 STEP1	指導者養成委員会	快適なハイキングを行うための各種スキルを実践しながら地図読みをマスターします。
11/26(土)	日本連盟 100 周年記念式典	日本連盟	明治神宮会館で開催。理事長ほか県連盟代表が出席
11/27(日)	スカウトソング研究会	指導者養成委員会	ソングの重要性の認識、教育的意義を再確認し活用方法や指導方法を楽しく学びます。
11/27(日)	団委員(長)セミナー	総務委員会	団の健全な運営に向けて団委員同士がセミナー形式で研修する予定です。
11/未定	第 73 回ボーイスカウト講習会	指導者養成委員会	体験を通して本運動の概要とスカウト教育の原理と基本的な方法について学びます。

II 事務局からのお知らせ

(1) 公共施設の利用に関して

ミュージアムパーク茨城県自然博物館では、新型コロナ対策として土曜・日曜・祝日については団体予約を中止しています。ところが、個人名で予約し、敷地内で隊集会等を実施しているボーイスカウト隊があるとのことで、自然博物館事務局より、県連盟事務局に苦情の電話（近県のボーイスカウト事務局にも連絡済み）がありました。

スカウト運動に対する市民や行政の信頼を失墜させることにつながりますので、施設のルールを守った活動をお願いいたします。同様のことは、公民館や自然体験施設、民間施設等でも起こりえますので、利用人数上限や行動規制などの施設の利用規定をよく確認して、それに反する場合は活

動場所や内容を再検討しましょう。制服を着た私たちは、常に市民に注目されていることを忘れないようにしましょう。

(2) ボーイスカウト×ユニクロ 難民支援衣料回収プロジェクトについて

世界 170 以上の国と地域に仲間がいるボーイスカウトにとって、難民への支援活動は他人事ではありません。自分たちと同じ年代の子どもたちが困っている状況に対して、自分たちでもできることを考え、実践しています。このプロジェクトを通じて、「難民について」の理解を深めるためのハンドブックや動画を用いて「難民」という世界的な課題に対してボーイスカウトの子どもたちが向き合い、学びと行動を起こす機会となっています。各団で活動に取り入れ、ご協力ください。

① 参加の方法

STEP1 申し込み

各団で「申し込みフォーム」により、団名、担当者様氏名、衣料を持ち込むユニクロ店舗や持ち込み予定日など登録してください。

STEP2 難民についてみんなで考えよう

ぜひ各隊等でスカウトたちと難民について考える機会を設けてください。

STEP3 洋服を集めよう

STEP4 集めた洋服を最寄りのユニクロに届けよう

STEP5 報告しよう

② 回収対象

- ・ユニクロ・ジーユーの着なくなった服
- ・子ども服（60～150cm）に限り、ユニクロ・ジーユー以外のブランドも対象になります。

③ 実施期間 2022年9月1日から10月31日

④ プロジェクトの詳細や学習教材

https://www.scout.or.jp/member/support_for_refugees/



Ⅲ コミッショナーからのお知らせ

(1) セーフ・フロム・ハーム (SfH) セミナー実践編の開催について (再掲)

セーフ・フロム・ハーム研修については、登録時のeラーニング、地区でのセーフ・フロム・ハームセミナー基本編をすべての指導者が受講することとなっています。セーフ・フロム・ハームセミナー実践編は、SfHの基礎知識を身につけた指導者を対象に、事例研究をもとに問題発生時の対応を学ぶセミナーです。特に団委員長や地区委員長、コミッショナー、県連盟理事など、セーフ・フロム・ハーム事案が発生した際に、矢面に立つ立場の方には、ぜひ参加していただきたい研修です。

日 時	2022年10月2日(日)	10時～15時
場 所	青少年会館大研修室	
主任講師	宮田俊晴(日本連盟リーダートレーナー、元日本連盟 SfH・安全委員会副委員長)	

IV 各種委員会よりのお知らせ

(1) プログラム委員会

① スカウトフォーラムについて

- ア. 行事名 スカウトフォーラム
イ. 期間 2022年10月16日(日)
ウ. 会場 笠間市地域交流センターTomoa (友部駅南口すぐ)
エ. テーマ 「新しい100年に向けてスカウトは何をすべきか」

第1回シニアスカウトフォーラムで『より良い社会を目指して、スカウトは何をすべきか』について討議されたことから、「スカウトの日」は始まりました。100周年を迎えるこの年に、私たちが継続して取り組む奉仕や地域貢献の形について考え、これから始まる新しい100年のスカウト奉仕の在り方について考えることをフォーラムの目的として開催します。

② プラごみバスターズ大作戦について

- ア. 期間 7月11日～11月7日、
イ. 会場 スカウトの日の9月19日(月・祝)を集中実施日として全国で実施します。

街の中や川辺など「ごみの循環から外れてしまったプラごみ(プラスチックごみ)の調査・撲滅活動をして地球を美しく！」をミッションとした活動がプラごみバスターズ大作戦です。

毎年9月のスカウトの日の活動の進化版として、回収したごみをゴミ拾いアプリ「ピリカ」を使って見える化します。今後も継続的にゴミが削減できる方法をスカウトと共に考え行動していきましょう。

「ピリカ」をダウンロードしてプラごみバスターズ大作戦に参加しましょう。

(2) 総務委員会

① ワクワク自然体験あそびの募集方法について

8月12日付 BS 茨発総第22-04号で「日本ボーイスカウト茨城県連盟維持財団からの500,000円の使途について」という文書をお配りしています。このお金は、県連盟の重点目標である加盟員増加のために維持財団より支援いただいたお金です。具体的には団や地区が開催するワクワク自然体験あそびや募集活動に役立てていただくものです。

昨年度のワクワク自然体験あそびに関して、次のような課題が出ています。

- ・日本連盟HPからの応募で、チラシをまく前にすぐに埋まってしまう
- ・そのため、ターゲットにしたい市町村の子どもが申し込めないのが、募集に関する効果が薄まってしまう

ワクワク自然体験あそびは、初年度は文部科学省の予算でしたので、募集を前面に出すことはできませんでしたが、2021年度からは日本連盟の事業ですので、募集を兼ねての開催が可能です。また、日本連盟の分析でも、ワクワクに参加した団数とワクワクに参加したことによって入団に結び付いたスカウトの数には相関関係があることが示されています

<https://www.scout.or.jp/member/wp/wp-content/uploads/2022/04/1d6effd724a90a159ac01f0c15468d20.pdf>

なので、ワクワクを募集に結び付けるには、できるだけ団の対象地域から子どもの参加を募ることが必要です。例えばこのような方法はどうでしょうか。募集人数を日本連盟に登録する人数とチラシで募集する人数に分けるという方法です。団でフォームを作り、QRコードを別にするやり方です。Google Formsなどを使えば、簡単に申し込みサイトを作れます。

日本連盟はQ&Aで「住所要件をつけることは可能」と回答しています(ただし申込サイトで選択できない)。また日本連盟の登録をしないと、日本連盟からの開催補助金(県連盟に支払われる)が支給されませんので、そちらはぜひご協力ください(県連盟の開催補助金は支給します)。

(3) 指導者養成委員会

① 研究会について

各研究会は、講師陣から一方的に教わるのではなく参加者の皆様と一緒に考えて、工夫して名前の通り、研究していく研究会です。それぞれ得意とする方も大歓迎です。そして、ちょっと不安な方は様々な技術、技能を修得するチャンスです。沢山の方の参加をお待ちしています。

みんなで楽しい研究会にしましょう。

② 申し込み期限について

期限内の申し込みにご協力をお願い致します。開催間際に申し込みをいただくと、準備等に支障が出てしまいます。宜しくお願い致します。

IBグランプリを毎年実施するわけ

茨城県連盟では2018年より、カブ・ビーバースカウトのプログラムとしてIBグランプリ（以下IB-GP）を開催しています。2018年は地区大会まででしたが、2019年からは県大会も開催することとし、地区で上位入賞したスカウトが県大会で競い合い、栄冠を手にはしています。2019年は新型コロナのため中止、2020年は指導者がカートを持参し、スカウトはオンラインで参観しました。2021年は5月に延期となったものの、初めてスカウトが参加しての大会となりました。

地区のコミッショナーやプログラム委員からは、現場の指導者の声として、「毎年やる必要はないのでは」「2年毎開催でいいのでは」などの意見が寄せられています。そこで、本稿ではなぜ「毎年」なのかを考えたいと思います。

■ IB-GP2021のスカウトの感想より

まず、参加したスカウトの感想から。

- ・たくさん車とたたかえて楽しかったです。また来年もがんばります。
- ・初めてIBグランプリ予選で優勝できて嬉しかったです。県大会で優勝できなくて悔しくて泣いちゃったけど、色々な体験ができて楽しかったです。
- ・自分の車が走る時はすごくドキドキしました。負けて悔しかったけど、みんなすごい作ってるなと思いました。次は勝ちたいです。
- ・普段は会わない他の団の人達など、いろいろな人と対戦できて楽しかったです
- ・野外調理場にスクリーンが用意されていて、待ち時間もレースを楽しめました。自分の出番はドキドキワクワクでした。
- ・決勝まで進めずくやしかったです。来年はもっと速い車を作って決勝までいきたいです。

参加した団の指導者の方はよくご存じだと思います。スカウトはまたやりたいんです！次はもっと工夫して勝ちたいんです！ビーバーの期間は2年、カブは3年しかありません。2年に1回では、部門毎で1回しか参加できないスカウトが出てしまいます。「負けをバネに次にがんばる」というスカウト活動の本当の楽しさを経験させられないからです。

■ スカウト活動と保護者の係わり

ビーバースカウト・カブスカウト部門では、スカウト活動において保護者の役割は非常に重要です。補助者やデンリーダーとして活動に参加してもらうだけでなく、家庭でもスカウトが取り組む様々な活動にかかわり、子どもたちの成長を支えてくれます。しかし、どちらかというとお母さんの係わりが多いのが現状ではないでしょうか。IB-GPでは、お父さんにこの運動を理解していただくとともに、積極的に参加してもらうことも目的としています。

■ 新たな指導者を求めて

前号のA I Sに関する記事で述べたように、指導者を任命し、適切な「任務中の支援」を行うのは団の責任です。では指導者はどのように獲得すればいいでしょう。育てたスカウトが指導者になってくれればうれしい限りですが、進学や就職でなかなか地元にもどれません。公募している団もありますが、反応はほとんどないようです。やはり保護者から指導者を育てていくのが、団を発展させるために必要でしょう。子どもがスカウト活動に参加している保護者には、スカウト運動に対する理解があり、指導者候補としては適任です。IB-GPなどの活動をとおして、地区や県連盟の活動を体験していただくことで、指導者への第一歩を踏み出してもらえればと期待しています。